

## 2019 年度・総合研究所研究チーム中間報告書

研究代表者（所属・職名・氏名）

国際言語文化センター・教授・金 泰虎

### ① 研究課題

東アジア社会における諺と慣用句の研究

### ② 研究期間

2019 年度～2021 年度

### ③ 研究メンバー

金泰虎、平井一樹、柏原卓、文春琴、王少鋒

### ④ 研究成果および実績の概要（1200～1600 字程度）

金泰虎は「日韓における諺と慣用句の考察—起源・定着過程・成立を中心に—」という題名のもと研究をするため、第六回中日韓朝言語文化比較研究国際シンポジウム（2019 年 8 月 21 日、延辺大学）で諺と慣用句の成立と定着に関する研究発表を行った。さらに諺と慣用句が消滅し、他のものに生まれ変わったり、再生産されたりする過程を歴史の史料から証明し、韓国言語文化教育学会秋季大会（2019 年 12 月 14 日、仁荷大学）で発表を行った。

柏原卓は日韓の近世語り物の代表作である説経「さんせう太夫」とパンソリ「春香伝」のことわざ使用状況を調査した。調査考察した内容を、韓国言語文化教育学会秋季大会（2019 年 12 月 14 日、仁荷大学）分科会で発表した。2 作品のことわざ 10 余件ずつを対象に修辞上の特徴を対照し、各々のことわざについて文脈中での「変化」と時代的地域的「変遷」の存在を解明した。また、文脈付き収集とデータベース構築の必要性、検索に役立つタグの試案を提起した。

平井一樹は「日本における中国関連の諺に関する考察」という題目を明らかにするため、資料収集と史料集めに専念した初年度だった。研究成果の発表を行う場がいきなり消えてしまったが、研究発表を行い、それを叩き台にして論文を仕上げる。

文春琴は「日本と韓国のことわざや慣用句が語る人生観と世界観」の研究において簡潔な言葉で意味を表し鋭い風刺や教訓、知識などを伝える慣用的表現は、ことわざと重なる部分も多いが、ことわざに比べ直言的、直説的で主に説明や主張に説得力を持たせる効果的手段として用いられることも多いと見なしている。そのため、ことわざと慣用句を同格に扱い分析の対象とした。韓国と日本の同等の意味または似通ったことわざと慣用句を分析対象とし、それに反映されている言語と世界の因果関係をとらえた世界観、その世界とどう付き合うべきかを問う人生観を分析するための資料収集及び史料集め、そしてアンケート調査を行った。

王少鋒の研究は 2019 年度の研究進捗状況の通りに国会図書館で先行文献と研究サンプルとなることわざを収集し、学会活動を通して最新の研究成果発表に接して来た。しかし、それらを総合的に検証した結果、多くの先行研究は恣意的に研究対象（ことわざ）を選出していることが明らかになり、ことわざの比較研究において研究対象となることわざを抽出するには科学的な方法論が明確に確立していないことがわかった。そこで、日韓中三国に女性に関することわざは多数あり、比較対象の選出は如何にして一定の対等的な有効性や客観性を担保できるのかを検証し、2019 年 8 月 21 日に中国の延辺大学にて開催された第六回中日韓朝言語文化比較研究国際シンポジウムにて「日韓中三国の女性語と女性一言語社会学の視点から—」という題目をもって発表を行った。

### ⑤ 今後の研究推進方策（継続の場合）

2 年目の研究を総括する意味で、研究に携わる全員が学会の場で発表を行い、叢書としてまとめる。

### ⑥ 研究発表

- ・ 研究費を使用して開催した国際研究集会
- ・ 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

国内外での研究背詠歌に関する発表を予定しているが、社会の状況により、その実現が難しくなっている。しかし、せめて研究者全員の国内学会での発表は実現させたい。

⑦ 研究成果による産業財産権の出願・取得状況

人文系の研究なので産業財産権に関わることはない。

⑧ 研究成果の公開方法（研究叢書の公刊、学術雑誌投稿など）

研究叢書及び学術雑誌に掲載をする。